

## 食べられる庭の先に



シュタイナーゆかりのドイツのエコビレッジ・ホーフダングリッシュ



屋根緑化されたゲストハウス



天井から光が差し込むゲストハウスの室内



エコデザイナー  
西條 正幸

1960年伊達市生まれ。  
札幌を中心にナチュラルスタイルの店舗、住宅の空間デザイナーとして活動。  
自然素材にこだわった新築、リフォームの設計、施工会社  
「西條インテリアデザイン」代表取締役。自然派生活提案「ECOSTA」店主。

## パーマカルチャーとは

1970年代にオーストラリアで生まれた持続可能な生活環境をつくるデザインシステムのことで、自給自足を目指した菜園や果樹園、家畜の飼育を、住宅の周辺に配置した農的暮らしのスタイルが特徴。日本に紹介され、広く知られるようになったのは、1993年に創設者であるビルモリンソン著の「パーマカルチャー」が翻訳出版されたことがきっかけだ。パーマネット（持続可能）・アグリカルチャー（農業）・カルチャー（文化）をかけた造語であるパーマカルチャーは、発祥の地オーストラリアでは学校教育にも取り入れられるほどメジャーな教育プログラムであるという。そのスタイルは、家の周辺を綺麗な花や植物で飾るガーデニングの風景というよりは、里山の民家の周辺に田畑が広がり、家畜の鶏やヤギが庭先で遊んでいる様子に近いのかもしれない。

自給自足をめざすなら、さまざまな種類の農作物を育てなければならない。多種多様な農作物を作る技術は、日本の農業を支えてきた「百姓」の専売特許であり、職人が技術を伝えるのと同じように、先祖代々受け継がれてきたものである。エコロジー建築が日本の木造建築を手本

にするように、パーマカルチャーも日本の農業を手本にしているのではないだろうか。どちらも学問として確立し、現代の大きな問題である持続可能な社会を目指す羅針盤としての役割を果たし、日本に逆輸入された格好だ。

それはさておき、自然とのつながりを深くして、心地よい暮らしの追求が大切であることをわたしたちに伝えてくれていることに変わりはない。最近、わたしたちのまわりでも農的暮らしを意識した家づくりの話が増えてきた。野菜作りに励む人、鶏をひら飼いする人、ミツバチを飼う人などさまざまながこれらをすべてまとめて相互に関わりあいながらバランスをとるのはパーマカルチャーの真骨頂だ。パーマカルチャーのテクニックを一言で語ることができないが、自然と調和し持続可能な文化・経済・教育や健康を重視する「コミュニティ」をめざす姿勢はエコビレッジに通じるものがある。



ベネディクト修道院跡の旧家を改修。30人が共同生活をし、オーガニックファームを経営していた。



エコビレッジ敷地内の農場



ファーム内の自家発電風車



伝統的レンガ積みで建てられた牛舎。  
150haの敷地に牛や豚の飼育と有機農作物を製産する  
オーガニックファームがある。

## Ecology House

環境と健康を考えたエコロジー建築



自然素材で新築・リフォーム

エ/コ/ロ/ジ-/ー/建/築/エ/房

有限会社 一級建築士事務所

西條インテリアデザイン

本社／札幌市北区百合が原4丁目8-1

tel. 011-774-8599 fax. 011-774-8581

伊達支店／伊達市舟岡町50-28

tel. 0142-22-0138 fax. 0142-22-0139

ホームページ <http://www.saijo-d.com>

ることができるのは最大の魅力である。  
同じ価値観を持った人が集まった菜園で  
は受動農業の心配もない安心な作物がつ  
くられることだろう。さらに二つの住  
宅に、持続可能なエッセンスを加えてゆく  
ことも大切になる。  
エコビレッジは本来の自然環境をでき  
るだけ壊さないよう設計されていて、そ  
こに生きるたくさんの生物が気持ちよく  
暮らせる、素敵な場所。地球環境を守る  
ための適切な配慮と、健康で快適に自然  
の中で暮らしていける、みんなにやさし  
い集落「エコビレッジ」をめざすのだ。  
わたしたちは北海道で最初のエコビ  
レッジを実現しようと、市民グループに  
よる活動を行っている。2007年の  
ステージは北の湘南・伊達市エコビレッジ  
計画。興味のある方の参加を期待したい。

## そしてエコビレッジへ

週末農家を楽しむクラインガルテン  
やシティファームが注目される傾向は、  
団塊の世代を中心にますます増加する  
ことが予想される。皆が集まって楽しむ  
コミュニティガーデンのイメージは、集落  
デザインにまで広がると、そこにはエコ  
ビレッジの姿が見えてくるはずだ。

パーマカルチャーのめざすところも、  
日本で造るのなら里山のような循環型の  
集落コミュニティなのだと思う。それは、  
本来日本の気候風土に合った形があるか  
らで、海外の事例をただ真似しても意味  
がない。住宅をエコロジカルに造ると、建  
築コストが高くなってしまふ。しかしエコ  
意識の高い住宅は、地球環境に対する負  
荷を少なくするばかりか、私達の体と精  
神の健康に良い影響を与えてくれる。建  
物や周辺の緑化を高めることにより、自  
然と暮らす住まいをさらに身近に感じる  
ことができるはずだ。そんな快適な住環  
境を求める人達が、皆で集まって住むま  
ちづくり「エコビレッジ」は、無駄なコスト  
を削減し、エコなチャレンジをするための  
投資ができる。またコミュニティガーデン  
を皆で共有することで、一家族では実現で  
きない大きなコンスペースを手に入れ